

第6回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和2年11月30日(月) 午後2時00分～午後5時35分
- 開催場所 富良野文化会館 大会議室
- 出席者 <委員>北会長、石川委員、山崎省委員、藤田委員、吉本委員
平間委員、小玉委員、遠藤委員、吉中委員、飯沼委員
黒木委員、山崎留委員
※オンライン参加者 加茂委員、松村委員、岩井委員
(現地12名、オンライン3名、計15名)
※欠席委員 荒木委員、菊地委員、倉西委員、柿崎委員
林委員 (計5名)
<事務局>稲葉総務部長、山下市民生活部長、柿本保健福祉部長
川上経済部長、小野建設水道部長、亀淵教育部長
藤野財政課長、関澤企画振興課長、入交企画振興係長
<受託事業者>フラノデザイン(株) 中村、大曾根

1. 開会(午後2時00分)

- ・事務局より、欠席者、オンライン参加者について報告

2. 市長挨拶

- ・お忙しい中、ご出席いただいた委員の皆様には感謝申し上げます。
- ・総合計画策定業務受託者であるフラノデザインと打合せをしていた際に、昨年のラグビーワールドカップでの日本のワンチームを引用して、ワンフラノで総合計画に取り組みましようとの言葉があったが、この有識者会議もワンチーム、ワンフラノで会議を進めていただいていると感じている。
- ・重点施策である総合戦略の内容となり、具体的な検討に入っておりますが、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

3. 議題

【北会長】

- ・議事に移りますが、有識者会議は、フラノデザイン株式会社にコーディネートをお願いしておりますので、よろしくお願い致します。

(1) 人口ビジョンについて

- ・資料1「将来人口推計(案)」に基づき、ポイントをフラノデザインより説明。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・人口について、ご意見ご確認があればお願いします。

【吉中委員】

- ・資料1の9ページの富良野市の出生届による出生率の違いは何か。

【入交企画振興係長】

- ・2015年から2019年の実数による算出となっている。
- ・算出にあたっては、実際に生まれた子どもの数と子どもを産んだ女性の年齢と数により計算される。

(2) 総合計画に係る重点施策(総合戦略)について

- ・資料2「重点施策(総合戦略)素案」について、重点施策毎にフラノデザインより説明し、意見交換。

◆重点施策 ひと①

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策ひと①「市民ひとりひとりが幸福を実感するまち」について、ご意見等ありますでしょうか。
※意見なし。

◆重点施策 ひと②

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策ひと②「富良野ならではの子育て環境づくり」について、ご意見等ありませんでしょうか。

【黒木委員】

- ・子育て世代が集える屋内遊戯施設が必要ではないか。
- ・母親だけでなく、父親も産後の育児に参加できる制度があると良いのではないか。

【遠藤委員】

- ・主な施策は、こども子育て支援事業計画の3つの重点施策と連動したものと理解して良いか。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・その通りです。

【吉中委員】

- ・子育てに対する体制、支援が具体的に何をやるのか見えない。
- ・富良野協会病院の産婦人科で、出産できる環境を整え、富良野で生まれ、人生を送れるようにするため、富良野で産む数を増やす必要があるのではないか。

【飯沼委員】

- ・10年後のめざす状態にするには、施策が実行され、検証と見直しが必要である。
- ・強化や充実などを具体的に見える形で計画をつくり、公表していく必要がある。
- ・安心とは、何かがあった時に手を差し伸べてくれる行政やコミュニティがあることであり、行政だけではなく市民もWAになっていく必要がある。
- ・総合計画と他の個別計画とがリンクしていることが大事である。

【松村委員】

- ・行政がつくる計画は、行政がやることだけではなく、市民の役割も明確にする必要があるのではないか。
- ・お金をかけないとできないこと、お金をかけなくてもできること、お金をかけられないけど難しいこと、などがあるが、子育て支援の医療費補助はどこでもやっているが、それで出生率が上がったなどの効果は出ていないのが現状である。
- ・子育てに対する体制、支援について、どんなことが求められているか随時把握するような事業があっても良いのではないか。
- ・共助での子育ての取り組み、子育て世代を雇用する事業者への支援など色々な選択肢を考えていくことも必要ではないか。

【岩井委員】

- ・子育て世代が求めている支援を把握する必要がある。
- ・具体的に何をやるかが大切であるが、これまでの子育て世代の声は実行されていないと感じるので、一緒に考える機会があることも大事ではないか。

◆重点施策 ひと③

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策ひと③「郷土愛につながる富良野でしかできない体験の推進」について、ご意見等ありませんでしょうか。

【黒木委員】

- ・演劇の取り組みは、地域に根差したものになっているのではないか。
- ・演劇は、コミュニケーションワークショップなど教育に活かす要素があり、人材もいるので文化面で活かしてはどうか。

【飯沼委員】

- ・富良野には芸術や文化などの資源がたくさんあり、地域でとれる食材も一級品である。
- ・文化は心の食、食事は体の食であり、これが健康である。

- ・市民や行政などが一緒になって、地域にある素晴らしい資源を活かしていく、体系化していくことで、豊かな町になっていくのではないか。

【吉中委員】

- ・演劇は、文化の土壌がしっかりしている。富良野高校演劇同好会の全国大会出場や「北の国から」ファンが今もいるなど、文化が人を呼び込むツールになっており、文化の土壌を深く耕して、広げていき、情動的なものにつなげていく必要がある。
- ・富良野の子どもたちの自己表現が豊かに感じるので、もっと引き伸ばしてあげる必要があるのではないか。
- ・スポーツの面では、野球の独立リーグや富良野高校ラグビー部の全国出場経験などスポーツが盛んな部分もPRしてはどうか。
- ・富良野は空気のきれいな町として上位に入っているため、資源を見つめ直して発信していく必要があるのではないか。

【松村委員】

- ・難しい時代に入って課題ばかりに目が行きがちだが、褒める文化が醸成するような文化づくりが重要ではないか。
- ・時代背景が変化しているため、地域イベントや町内会、PTAなどが時代に応じて変わってきているか徹底的に調査し、費用対効果などを考える必要がある。

◆重点施策 ひと④

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策ひと④「いつまでも健康で自立できる心と体づくり」について、ご意見等ありますでしょうか。

【平間委員】

- ・ここ数年で引きこもりに関するニュース等が増えているので、人に優しい施策が必要と感じる。

【松村委員】

- ・健康寿命を指標にしてはどうか。
- ・医療や介護の社会保障費を指標にしてはどうか。健康になれば行政負担も減っていくと考えられる。

【飯沼委員】

- ・健康でこの町で生き続けることができる、この町で良かったと思えることが大切である。
- ・人を大事にする視点で、上川南部には特別支援学校がない。
- ・総合計画が、地域福祉計画などの個別計画との連動も大事である。

◆重点施策 ひと⑤

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策ひと⑤「富良野につながっている人が増える仕組みづくり」について、ご意見等ありますでしょうか。

【飯沼委員】

- ・富良野で都会の仕事ができる際に住む場所が大事になってくるので、空き家対策とセットにして考えていく必要がある。
- ・関係人口に対して、空港からのアクセス、文化や食材、空気がきれい、水がおいしいなどの良さを前面にPRしてはどうか。

【黒木委員】

- ・富良野が魅力度ランキングの上位にいるが、きっかけとなったのはラベンダーや「北の国から」ではないか。「北の国から」で発信したイメージを大切にしまちづくりも良いのではないか。
- ・自然環境を活かしたまちづくり、SDGs など、富良野としての特徴を色濃くしていくことが差別化につながるのではないか。

【吉中委員】

- ・ターゲットを絞る必要性がある。富良野からの流出を防ぐ、観光客を誘致する、移住者を増やすなど個別の戦略が必要と感じる。
- ・労働人口を確保するためにも、様々な環境が優れているところをPR する必要がある。
- ・ふるさと納税寄付者は1つの目安であり、それが少ないのであれば検証が必要である。共感を得ている点では指標になり得るのではないか。

【藤田委員】

- ・地球温暖化等の影響でぶどうやサクランボの栽培地を求めて富良野に来ている現象があり、また上質な雪を求め本州から北海道のスキー場に人が移動していると聞くので、富良野の環境を活かした関係人口の創出、移住促進につながっていくのではないか。

【岩井委員】

- ・ふるさと納税は関係人口につながる。体験を返礼品にすることで富良野の訪問につながる。品物だけでなく、ソフト面を整備することが効果的ではないか。

【黒木委員】

- ・農業体験などはリピート率が高く、実体験は関係人口につながっていくので、富良野で体験ができる選択肢がたくさんあればと思う。

【松村委員】

- ・関係人口は状況が掴みにくいが、ふるさと納税でなぜ富良野を選んだのか把握する仕組みを考えてはどうか。
- ・関係人口などから、富良野の良くするためのアイデアをくみ取る仕組み（提案を受け止め、お返しする仕組み）があると良いのではないか。

【吉本委員】

- ・ワーケーション受入の状況はどうなっているのか。

【関澤企画振興課長】

- ・本年度、ワーケーション受入検討実証事業を実施しており、首都圏から実際にワーケーションに来ていただいた方と意見交換し、可能性の調査を行っている。

◆重点施策 しごと①

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策しごと①「新たなチャレンジを応援する」について、ご意見等ありますでしょうか。

【吉中委員】

- ・新規就農者の受入について手厚い支援がある反面、来る人を限定しているので、来る人の自由度をあげる取組を実施してほしい。作る作物や入る地域が来る人に決定権があり、サポートする形に変えてほしい。
- ・農村人口や戸数が減少している中、農業法人が増加している。外国人などの就労者を抱え、宿舎の課題があるので調査、対策、検討が必要ではないか。

【黒木委員】

- ・新規就農に際し、選択肢を増やしてほしい。現状は失敗してほしいので手厚いサポートをしているが、行政だけでなく地域も失敗を許容する土壌づくりがないとチャレンジすらできないのではないか。
- ・行政がやることは失敗が許されないかも知れないが、完璧にできない、効果がでないこともあるので、ひとりひとりの意識の変化も必要になってくる。

【吉本委員】

- ・新規出店件数が減少しているが、原因や構造など客観的に検証する必要がある。
- ・KPI も増えればいい訳ではなく、活性化の面で良くなったり、逆に競争により激しくなる面もあると思うので、バランスが大事だと感じる。

【遠藤委員】

- ・具体的な事業をどう考えているかが大事であり、新規事業や継続事業があるかと思うので、力を入れる事業から KPI を設定することも必要ではないか。

【岩井委員】

- ・富良野で起業したいときに相談する場所はどこか。ワンストップ窓口があるとわかりやすいのではないか。

【川上経済部長】

- ・起業や出店の相談は、市に直接くる場合や商工会議所、商工会に相談する場合がある。
- ・市として把握しているのは補助金を活用して出店した方のみである。

【松村委員】

- ・新規起業はハードルが高いため、うまくいっているが後継者がいない人とつなぐ仕組みがあると良いのではないか。

【飯沼委員】

- ・新規就農する際にハードルが高いと人をつなぐことも難しくなるので、やる気のある新規就農者へ優しく手を差し伸べて、フォローすることが必要ではないか。

【吉中委員】

- ・富良野で誰でも農業ができる環境があってもいいのではないか。市民農園の延長でやってみて、実際にできると思ったら本格的に農業に取り組むなど。
- ・毎年、確実に農村人口は減り、一戸あたりの耕作面積は増えているので、経済的に成り立つような環境にしていかななくてはならない。
- ・農村コミュニティがなくなると、地域の保全活動ができなくなるので、人の力は欠かせない。
- ・農業をする、作物の作るハードルを下げることによって、誰でもできる環境をつくっていくことも大事と考える。

◆重点施策 しごと②

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策しごと②「地域内産業の付加価値を高め、稼ぐ力を強化する」について、ご意見等ありますでしょうか。

【松村委員】

- ・農業や観光の面から季節雇用が多いと考えられるので、組み合わせにより通年化を図ることで安定化、定住化させる仕組みが必要であり、民間による派遣会社みたいなものがあると良いのではないか。

【黒木委員】

- ・付加価値の向上のためにはデザインやセンス、モノであれば想いや物語が大切になってくる。
- ・富良野全体のストーリーなどがないと付加価値は向上しないのではないか。
- ・東川町を見てみるとセンスやデザイン性が高いと感じる。
- ・富良野全体としてのデザインの統一、ひとつひとつのデザインも意識した方が良いのではないか。

【松村委員】

- ・デザインの持つ力を最大限活かす必要がある。
- ・富良野にふさわしい暮らしやライフスタイルをデザインすることで、町を変えていき、富良野ってカッコいい町、カッコいい暮らしと思われることで定住化や魅力度もあがってくるのではないか。

【吉本委員】

- ・地域経済循環率を上げるのは、コントロールが難しく感じる。

【吉中委員】

- ・農業は経営規模が大きくなるので、所得がないと維持することができない。
- ・二世帯で経営しているとして、事業所得1千万円位が目安となるのではないか。

【石川委員】

- ・KPIの観光消費単価の設定根拠は何か。

【入交企画振興係長】

- ・昨年3月に策定した観光ビジョンから引用している。
- ・今後、新型コロナの影響でビジョンの見直しがあるのであれば、見直した内容を総合計画にも反映していきたい。

【飯沼委員】

- ・富良野オムカレーも地域内産業の付加価値を高める取組でスタートした。
- ・農家のこだわりや価値の高さなどを知らせていく必要があり、そのことが町の価値の向上につながるのではないか。

◆重点施策 まち①

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策まち①「マッチングを通じて新たな価値を創造する」について、ご意見等ありますでしょうか。

【山崎留委員】

- ・新型コロナの影響で農業の外国人研修生が来られない部分を、ボランティアなどと結びつけるマッチングがあるとよいのではないか。そうしたことが新規就農にもつながっていくのではないか。

【吉中委員】

- ・使えるツールはどんどん使っていく観点から、地域おこし協力隊をもっと活用してはどうか。
- ・人的な力の活用により、関係人口を増加させ、魅力発見につなげ、ブランド力を向上させてはどうか。

【松村委員】

- ・高校生や大学生のインターンシップの機会を提供してはどうか。ただネックになるのが、富良野に来る際の宿泊などの滞在費の負担が大きく、シェアハウスなどの仕組みをつくることにより、UIターンが促進されるのではないか。
- ・インターンシップ数を指標に入れても良いのではないか。

【吉中委員】

- ・若い人を呼び込む手段として、サテライト校を活用してはどうか。

◆重点施策 自然①

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策自然①「豊かな自然環境を100年後につなぐ」について、ご意見等ありますでしょうか。

【山崎留委員】

- ・小さな変化に気づきの部分で、住んでいると気づきにくいので、地域おこし協力隊を活用してはどうか。
- ・東山地区で地域おこし協力隊がフォトコンテストを企画実施し、地元の人にも再発見の機会となったので、外からの視点も大事ではないか。

【黒木委員】

- ・農村景観を維持するためには、人がいないと維持できない。畑だけではなく、川などの維持管理も必要となる。農村地域の人口をKPIとしても良いのではないか。
- ・豊かな自然環境の点で、酪農家から出る糞尿の有効活用と汚染につながらない富良野独自のルールがあっても良いのではないか。

【松村委員】

- ・森林保全の方法は難しい。行政がお金をかけるだけでなく、昨今のキャンプ人気から山の賃貸化により、山を楽しむことで保全につながるシナリオを考えてはどうか。

【飯沼委員】

- ・森林保全の推進は、観光的にも環境的にも非常に大きい。農村と自然から富良野らしい景観につながっている。
- ・針葉樹は暗く、広葉樹は色鮮やかなので、広葉樹を促進することで紅葉がきれいになり、観光にもつながっていくのではないかな。

◆重点施策 基本①

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策基本①「アイデアが生み出されカタチになる仕組みづくり」について、ご意見等ありますでしょうか。

【松村委員】

- ・今回の総合計画は、共創が大きなテーマで実効性が重要である。
- ・KPIのテーマ別ワークショップ開催数は形骸化しそうな指標なので、行政がテーマを考えるのではなく、住民が考えてはどうか。住民からのテーマの提案数が KPI でも良いのではないかな。
- ・アクションリサーチを取り入れ、アイデアの実行と検証をプログラム化してはどうか。

【岩井委員】

- ・100人ワークショップでも中高生の参加もあったので、子どもたちがまちづくりに関わる機会があると、意識の醸成にもつながるのではないかな。

【黒木委員】

- ・子ども未来づくりフォーラムから出たアイデアは実行されることはあるのか。
- ・今回はオンライン配信だったが、一般市民は見ることはできたのか。

【亀淵教育部長】

- ・子どもたちからのアイデアが必ずしも具体化につながってはいない。行政に関わらず、様々な方が参加しているので、アイデアは参考になっているのではないかな。
- ・オンライン配信の録画したものを今後活用していく予定である。

【山崎留委員】

- ・ワークショップのやり方について、年配の人の意見も取り入れるのであれば、町内会単位の集まりを活用していくと良いのではないかな。

【松村委員】

- ・子ども未来づくりフォーラムのアイデアを活かす主体が誰なのかが重要である。すべてが行政ではなく、行政ではない立場の動きが必要であり、行政はそれをサポート、把握することが大事になってくるのではないかな。

◆重点施策 基本②

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策基本②「デジタル利活用による行政サービスの向上」について、ご意見等ありますでしょうか。

【山崎留委員】

- ・セミナーなどがYouTubeなどで随時配信されると良いのではないかな。

【飯沼委員】

- ・デジタルもどんな仕組みをつくっても使ってもらわないと意味がないので、広めて理解してもらう必要がある。
- ・デジタルを使ってもらおう仕掛けを用意していくことが大切である。

【平間委員】

- ・富良野産品応援キャンペーンがあったが、デジタルを使える人と使えない人の差を感じたので、使えない人への配慮が必要である。

【遠藤委員】

- ・デジタルは住民サービスの向上にスピード感を持って対応できるが、使えない人に対するフォローが必要で、アナログとのバランスが重要である。

【黒木委員】

- ・行政事務の効率化によって、時間や経費がどれだけ削減できたかが指標にあると良いのではないか。

【松村委員】

- ・オープンデータは重要な視点で、行政の効率化と同時に、根拠ある政策づくりが大切になってくる。
- ・行政内の住基、税務、社会保障などクローズなビックデータを分析、活用できると非常に有効と考える。

◆重点施策 原資①

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策原資①「未来への原資を生み出し続ける」について、ご意見等ありますでしょうか。

【松村委員】

- ・未来への原資は、非常に良いと感じる。
- ・ふるさと納税やクラウドファンディングなどの顔の見えないお金を薄く広く集めるよりは、顔の見える地元の人のお金を自分事のまちづくりに使うことにフューチャーした方が良いのではないか。もちろん両方大事であるが。

【吉中委員】

- ・財源確保のためにはアイデアが大事で、想像力を働かして広く募集することも1つではないか。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・貴重なご意見等ありがとうございました。
- ・いただいたご意見等もとに、施策等につなげていければと考えております。

【北会長】

- ・本日の長時間にわたるご議論、ご検討ありがとうございました。

4. その他

- ・特になし

5. 今後の予定

- ・今後の有識者会議日程について事務局より説明

6. 閉会（午後5時35分）

【北会長】

- ・次回有識者会議まで期間はあきますが、健康に留意していただきたいと思います。
- ・行政として色々な取組が求められておりますが、今後につなげていきたいと考えております。